

すべては未来の子供たちのために

# Heart & Smile

【ハート&スマイル】 Vol.5 2015 August

FREE



ブータンから逃れ、UNHCRの支援を受けて、ネパール東部の難民キャンプで暮らす少女たち。

©UNHCR/S. Bhattarai

Heart & Smileプロジェクト活動レポート **Heart & Smile Award 授与式**

笑顔の達人 **スポーツを通じて国際貢献を進める有森裕子さん**

笑顔を作る町 **徳島県「お遍路を通して人々が交流する町」**



シダックス  
総合研究所出版

# Heart & Smile 勇気プロジェクト「Heart & Smile Award」授与式



## SHIDAX Heart & Smile プロジェクト 活動レポート

世界中の子供たちや若者たちのために、そしてお客様の笑顔のために、今できることを！  
シダックスグループの店舗、施設で取り組む「Heart & Smileプロジェクト」の活動をレポートします。

レストランカラオケ・シダックスで展開した「Heart & Smileプロジェクト」で集まった寄付金を、国連UNHCR協会の榎森隆伸理事・事務局長に贈呈いたしました。



### Heart & Smile Award 授与式・寄付金贈呈式

2015年5月15日(金) シダックス・カルチャーホール

今年3月までレストランカラオケ・シダックスで実施した、歌唱動画投稿で難民への寄付につながるプロジェクト「Heart & Smile Award」の優秀者を表彰する「Heart & Smile Award」授与式を開催しました。

#### レストランカラオケ・シダックスで展開した「Heart & Smileプロジェクト」寄付金総額 1,509,790円

- (内訳)
- Heart & Smile Award歌唱動画投稿数(計95,388エントリー) 953,880円(1投稿/10円)
  - Heart & Smile パーティーコース提供数(計3,055人) 61,100円(注文お1人様/20円)
  - Heart & Smileメニュー提供数(計12,251食) 122,510円(1メニュー注文/10円)
  - Heart & SmileプロジェクトソングCD「ユーモアしちゃうよ」(SMAP) レストランカラオケ・シダックス店頭限定販売数(計7,446枚) 372,300円(1枚ご購入/50円)

授与式に集まった関係者、優秀者の皆さん。前列左から、優秀者の英里子さん、篠山麻衣さん、篠山さんのお子様、安田祐介さん、阿部文恵さん(※Emi Smaさんは当日欠席)。後列は協力各社を代表して、左からオリコン・エンタテインメント株式会社代表取締役社長 高橋茂様、ハウス食品グループ本社株式会社取締役・コーポレートコミュニケーション本部長 藤井豊明様、株式会社エクシング代表取締役社長 吉田篤司様、サントリー酒類株式会社常務取締役市場開発本部長 伊藤義信様(右から2人目)、株式会社JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント代表取締役社長 斉藤正明様(一番右)。

会場では、優秀者の歌唱動画投稿作品も披露されました。



#### レストランカラオケ・シダックスで展開した「Heart & Smileプロジェクト」

本文で紹介した、歌唱動画投稿による「Award」のほかにも、専用メニュー「Heart & Smileパーティーコース」は注文お1人様につき20円、同じく「Heart & Smileメニュー」(メニュー、ドリンク計3品)ご注文1品につき10円を、国連UNHCR協会にシダックスが寄付しました。また、プロジェクトソング「ユーモアしちゃうよ」(SMAP)の店頭限定CDを販売。1枚販売につき50円を国連UNHCR協会に寄付しました。



「Heart & Smile パーティーコース」のメニュー。



集まった寄付金を活用して、難民の方々へ送る栄養強化補助食品を披露する国連UNHCR協会の榎森理事・事務局長。



3月まで「Heart & Smileプロジェクト」のスペシャル・サポーターとして盛り上げたジェシー(ジャニーズJr.)さんも登場しました。

昨年8月から今年3月まで、全国のレストランカラオケ・シダックスで実施した、シダックスグループの「Heart & Smileプロジェクト」の1つ、「Heart & Smile Award」(以下「Award」)。この取り組みは、店内に設置してある通信カラオケ機器・株式会社エクシングの「JOYSOUND f1」の歌唱動画投稿機能「うたスキ動画」を利用し、お客様が歌唱動画を1エントリーするたびに、シダックスが10円を国連UNHCR協会に寄付するというプロジェクトで、合計9万5388名のお客様に参加いただきました。

5月15日(金)、この「Award」に参加いただいたお客様の中から、厳正な審査の結果、優秀者5名を選出。その授与式を東京・渋谷のシダックス・カルチャーホールにて行いました。

会場では、優秀者5名が登壇し、

投稿した歌唱動画を来場した会場の皆様と共に鑑賞。思わず笑顔(Smile)がこぼれるような、温かい拍手が会場を包みました。

弊社代表取締役会長兼社長の志太勤一は「日常のちよとした行動を、社会貢献につなげられるのが「Heart & Smileプロジェクト」です。私たちもこのプロジェクトをさらに推進し、関係各社の皆様やお客様と共に、より良き社会を作っていくしたいと思います」と、プロジェクトにかける想いを述べました。

また、「Award」に加え、専用メニューの注文数やプロジェクトソング「ユーモアしちゃうよ」(SMAP)の店頭限定CDの販売枚数に応じて、シダックスが寄付活動を行う取り組みなど、レストランカラオケ・シダックスで展開した「Heart & Smileプロジェクト」による寄付金贈呈式も併せて開催。国連UNHCR協会の榎森隆伸理事・事務局長に、計150万99790円の寄付金の目録を贈呈いたしました。

榎森さんは「この寄付は、アフリカの子供たちの栄養改善プロジェクトに活用させていただきます。難民キャンプに到着した子供たちが、1食500キロカロリーの栄養強化補助食品を口にすると、栄養状態が著しく改善されます」と、感謝の言葉を述べられました。こうして、お客様の、一歩踏み出す勇気の積み重ねが、本プロジェクトを通じて、確実に世界規模で起こっている難民支援へとつながっていきます。



©UNHCR/Donatella Lorch

② 家族を守る農民ジャガット。家は失ったが、大切な太鼓は守ることができた。



©UNHCR/Donatella Lorch

① 崩れた家の前に座る教師ブラキティ。現在はテントで暮らす生活が続いている。

子供たちの笑顔を目指して

## UNHCR 活動報告

# ネパール大地震の 現状と被災者からの声。

4月25日に発生したネパールの大地震は、大きな被害と、多くの死者・負傷者を生み出す事態となりました。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、世界中から寄せられたご支援のおかげで、420万ドル(約5億円)以上の資金を救援活動に活用することができました。現在は物理的な支援だけでなく、精神的なケアや法的支援など、多角的なサポートを行っています。こうした支援を必要とする被災者の、震災直後の声をお届けします。

### 80年間で最も強い地震が ネパールを襲う

4月25日11時56分(現地時間)、マグニチュード7.8の地震がネパールを襲い、大規模な被害をもたらしました。8000人近くが犠牲となったほか、地滑りや雪崩が起こったために、少なくとも19人が亡くなったという、最悪の山岳事故がエベレストで発生。翌日もマグニチュード6.7の余震が起こり、何千人もの生命が脅かされる事態が続きました。建物やインフラへの被害も深刻です。UNHCRは、過去30年にわたりブータンなどからの難民を保護・援助し、ネパール国内で活動してきたため、今回は地震発生後24時間以内に緊急援助物資を配付することができました。

一般家庭への影響は深刻で、推定280万人が屋外での避難生活を余儀なくされています。ネパール政府は、約17万軒の家が崩壊し、14万軒

以上がひどい損傷を受けたと発表しています。

今回は、地震による被災者が、当時どのような状態にあったのかを伝え、前に進み、復興に向けて奮い立つ人たちの声をご紹介します。

### ① 働きながら学ぶ教師 言語学の修士号取得を目指し、 学んでいた夢がくだける

ブラキティ・ティマルセナ(25歳)は、ジャンクリダンダという人口3000人ほどの小さな町で育ちました。この町は、カトマンズから車で3時間ほど走った、南部の山中にあります。メインストリートに面した岩棚の上にある彼女の実家は、町で一番大きな家屋でしたが、その家も震災で壊れてしまいました。

ブラキティが失ったのはそれだけではありません。教師として働きながら、言語学の修士号取得を目指して、南部の大都市バタンの大学で学

んでいた夢も、くだけてしまったのです。ブラキティは今、授業へは出席せずに、実家に戻って新しく家を建てる手伝いをしています。話の途中で、ブラキティは泣き出してしまいました。ネパールに暮らす多くの人と同じように、彼女はまだショックから立ち直ることができていないのです。

「地震が起きたとき、私はバタンにいました。実家へ戻ろうとタクシーを拾ったのですが、1マイルも走らないうちに降ろされてしまいました。近所に住む人が小さなトラックで迎えにきてくれるまで、1時間もそこで待っていたのです。2日目には雨が降りました。防水シートさえ持っていなかったため、私はただ座り込んで「なぜバタンで防水シートを買ってこなかったんだろう」と自分を責めていました。地震発生後の5日間はなにもすることができず、ただ道路脇に座って過ごしたのです」

### ② 家族を守る農民 震災後すぐに家族のために 2つの小屋を建てる

ジャガット・シン(42歳)は、村の子供たちに慕われる魅力的な笑顔の持ち主。彼の手は、長年の畑仕事で硬くなっています。地震が起きたとき、家族は家を飛び出し、近くのトウモロコシ畑に逃げ込みました。その後ジャガットは、崩れかけた家に戻り、年老いた母の足をつかんで家から引っ張り出したのです。震災後、ジャガットは家畜と家族の

ために避難小屋を2つ建てました。彼の家にあった、代々受け継がれ、村の子供たちを楽しませてきた大事な太鼓は、今、地元NGOに支給されたテントで守られています。

「震災後に建てた家の屋根は、元の家のものです。すぐに家を建てることのできたのは、建設作業員として働いていた父の仕事を見て、学んでいたおかげ。子供たちには、1934年に起きた地震と、その後続いた余震の際に祖父に教えられたエピソードを話し、パニックを起こさないように伝えています。子供たちがきちんとした食べ物を欠かさず食べられるということが、なによりも大事です。彼らと一緒に歌い、地震は起こるものだけれども、決して人生の終わりではないということを言い聞かせています」

### ③ 最前線で活動する兵士 家族が暮らす家が倒壊しても、 救助活動を続ける

ネパール軍に14年間従軍しているベテラン主計下士官、ベシユ・バハドゥール・ブハトキは、部隊長として村の安全確保のために働く兵士をとりまとめています。彼の出身地ドラカは地震の被害が大きく、5月12日に起きたマグニチュード7.3の余震の影響も強く受けた地域です。ブハトキは発生直後に、16人の家族が暮らしていた家が倒壊し、住む場所を失ったことを妻の電話で知りました。しかし、地震発生から1か月が経っても家に帰れずにいました。家を建



©UNHCR/Donatella Lorch

③最前線で活動するネパールの兵士たち。地震で倒壊した家屋から資材運び出す。

子供たちの笑顔を目指して  
UNHCR活動報告

ご寄付のお願い

特定非営利活動法人 国連UNHCR協会



UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により

故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けて働きかけています。この国連の難民援助活動を支えるため、広報・募金活動を行う公式支援窓口が、国連UNHCR協会です。皆様の温かいご支援を、心よりお願い申し上げます。

ご寄付のお申し込みはウェブサイトからお願いします。

※ご寄付は税制優遇の対象になります。

国連 難民

検索

国連UNHCR協会の公式アカウントご案内



公立学校が再開

6月現在で、UNHCRはソーラーランタン16,000個、現場からの要望があった防水シート10万枚以上、毛布5万枚等を被災者に届けました。安全が確認された地域では、地震発生以来休校していた公立学校が5月末に再開しました。UNHCRが配布した防水シートや木材で仮設校舎が建設され、子供たちが再び学び始めています。子供たちの学習過程を、止めることなく続けることは極めて重要です。また学校の再開は、大きなショックを受けた出来事の後に、日常を取り戻すのに役立っています。



学校に再び通えるようになり、笑顔を見せる子供たち。

©UNHCR/Nepal

て直す手伝いをしたいのですが、軍の任務があるため、いつ戻る事ができるかわからないのです。震災直後から、ネパール軍は村々での救援活動の最前線で活動してきました。「今まで見てきた中で、最悪の状況を目の当たりにしています。発生直後は救助隊として、生存者を救出していました。今は建物を取り壊し

たり屋根をはがしたりする作業に当たっています。壁が崩れて下敷きになる可能性があるため、非常に危険な作業です。他には倒れた家屋の中から食料を運び出したりしています。今後は、新しく家を建てるための材料を確保する作業に入る予定。一度家を取り壊し、まだ使えるレンガや石を選び出すのです」

※被災者の声執筆: Donatella Lorch